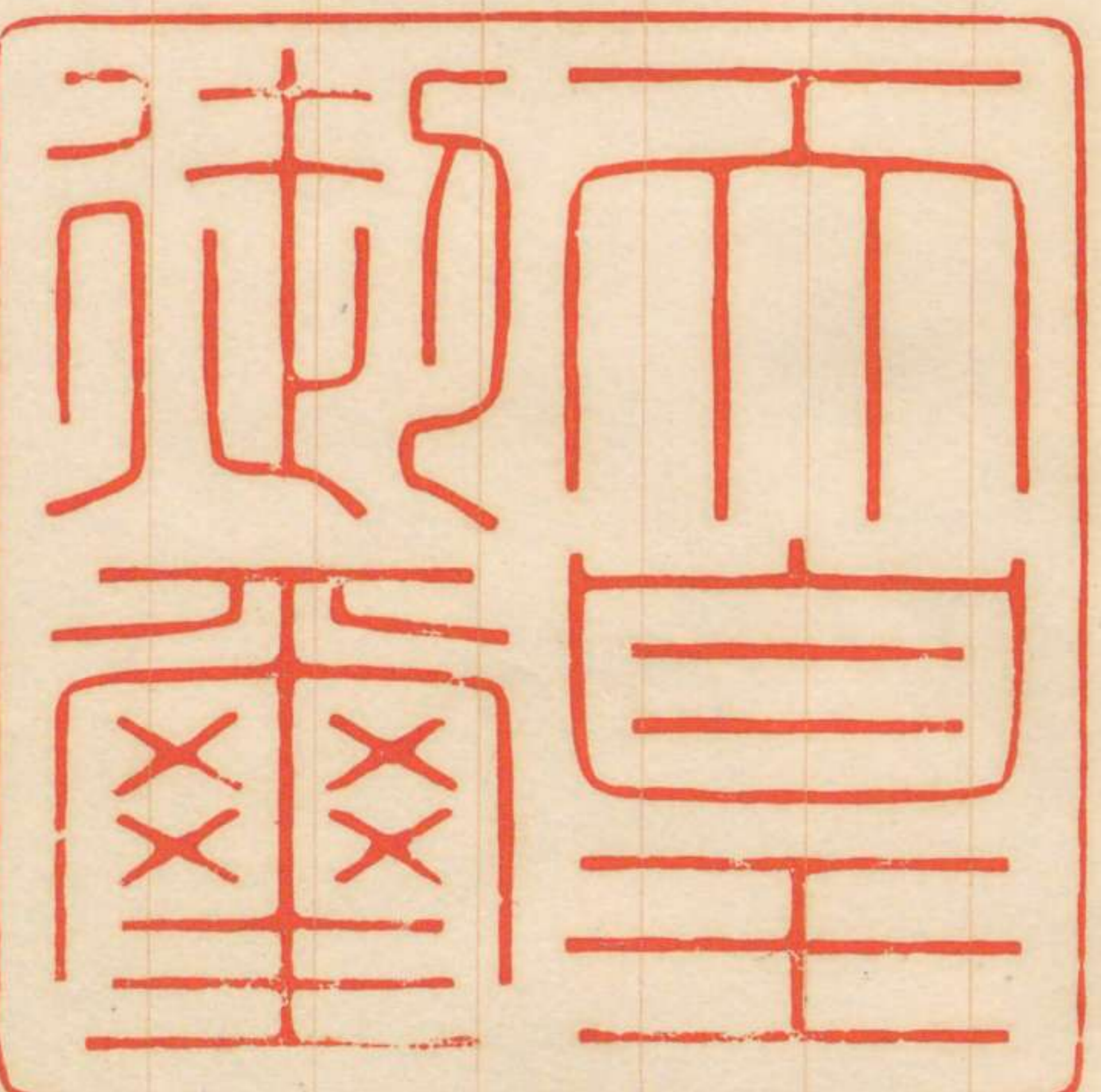


勅令第百十四号



朕砲兵方面條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ
之ヲ公布セシム

睦仁



明治二十九年四月一日

陸軍大臣候爵 大山 巖

勅令第百十四號

砲兵方面條例

第一條 砲兵方面ハ陸軍大臣ノ管理ニ
屬シ陸軍所要ノ兵器彈藥ノ購賣貯藏
保存修理支給交換及要塞備砲其ノ他
之ニ關スル砲兵事業ヲ掌ル所トス
第二條 砲兵方面ハ第一方面第二方面
第三方面トス第一方面ハ本署ヲ東京
ニ置キ近衛第一第二第七及第八師管
ヲ管轄シ第二方面ハ本署ヲ大阪ニ置

キ第三、第四、第九及第十師管ヲ管轄シ
第三方面ハ本署ヲ門司ニ置キ第五、第
六、第十一及第十二師管ヲ管轄ス

第三條 師團司令部並要塞所在ノ地ニ
方面支署ヲ置キ其ノ他樞要ナル衛戍
地ニ武庫ヲ置ク但武庫ハ支署ノ管轄
トス

支署ハ三等ニ區分シ其ノ新設及等位
並武庫ノ新設ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第四條 砲兵方面本署支署ニ左ノ職員

ヲ置ク

本署

本署長

砲兵大中佐

署員

砲兵少佐 大中尉

軍吏

支署

支署長

砲兵中少佐 大尉

署員

砲兵大中尉

軍吏

第五條 前條ニ掲クハ職員ノ外本支署

二砲兵上等監護砲兵科下士軍吏部下
士及要塞所在地支署ニ技手ヲ置キ武庫
ニ砲兵科下士ヲ置ク但シ支署及武庫
附下士ニ在テハ所在地隊附下士ヲシ
テ其ノ業務ヲ兼ネシムルコトヲ得
第六條 本署長ハ陸軍大臣ニ隸シ砲兵
方面ノ事務ヲ總理シ管掌ノ事項ニ就
テハ其ノ責ニ任シ且ツ所管要塞ノ新
設クハ補修ニ關スル砲兵事業ノ調査
ニ任ス

第七條 支
面ノ事務
ハ其ノ責ニ
派出所ノ事業
師團及要塞ノ在
當該師團長及重
第八條 署員及重
受ケ各事務ヲ分
第九條 武庫附下士ハ支署長ノ統轄ニ
屬スト雖モ其ノ職務ニ就テハ尚ホ所

官掌ス
砲彈藥ノ事ニ就テハ
司令官ノ命ヲ受ク
ハ本支署長ノ命ヲ
シ其ノ責ニ任ス
砲兵方
官掌ノ事項ニ就テ
ツ所在地砲兵工廠

二砲兵上等監護砲兵科下士軍吏部下
士及要塞所在地支署ニ技手ヲ置キ武庫
ニ砲兵科下士ヲ置ク但シ支署及武庫
附下士ニ在テハ所在地隊附下士ヲシ
テ其ノ業務ヲ兼スルコトヲ得
第六條 本署長ハ陸軍大臣ニ隸シ砲兵
方面ノ事務ヲ總理シ管掌ノ事項ニ就
テハ其ノ責ニ任シ且ツ所管要塞ノ新
設クハ補修ニ任ス



第七條 支署長ハ本署長ニ属シ砲兵方
面ノ事務ヲ分擔シ管掌ノ事項ニ就テ
ハ其ノ責ニ任シ且ツ所在地砲兵工廠
派出所ノ事業ヲ管掌ス
師團及要塞ノ兵器彈藥ノ事ニ就テハ
當該師團長及要塞司令官ノ命ヲ受ク
第八條 署員及軍吏ハ本支署長ノ命ヲ
受ケ各事務ヲ分擔シ其ノ責ニ任ス
第九條 武庫附下士ハ支署長ノ統轄ニ
属スト雖モ其ノ職務ニ就テハ尚ホ所

在地衛戍司令官ノ監督ヲ受ク

第十條 砲兵方面保管ノ兵器彈藥ハ之ヲ分テ本須及支須トシ本署支署武庫ニ分配貯藏ス

第十一條 砲兵方面保管ノ兵器彈藥庫ニハ衛兵ヲ置キ尚ホ下士又ハ定番人ヲ置クコトヲ得但シ場地ノ便宜ニ依リ衛兵ヲ要セサルトキハ本署長ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ定ム
新ニ衛兵ヲ置クトキハ本署長又ハ支

署長ヨリ該地衛戍司令官ニ請求スルモノトス

要塞備付ノ兵器彈藥ハ砲臺監守ヲシテ之ヲ監守セシム

第十二條 兵器彈藥庫附近ノ地ニ騷擾警戒ノ事アレハ本署長又ハ支署長ヨリ該地衛戍司令官ニ牒告シ守衛ヲ嚴ニスヘシ

附則

第十三條 當分ノ内藝豫要塞ノ新設若

クハ補修ニ關スル砲兵事業ノ調査ハ
特ニ砲兵第二方面本署長ノ任トシ且
ツ當該支署ハ同方面ノ管轄ニ屬ス

第十四條 明治三十年三月盡日迄ハ第
二條ニ掲クハ管轄區域ニ拘ハラズ名
古屋支署ハ砲兵第一方面ノ管轄ニ屬
シ廣島下ノ關熊本及對馬支署ハ砲兵
第二方面ノ管轄ニ屬ス

第十五條 要塞司令部設置ニ至ル迄本
署長及支署長ハ其ノ所管要塞ノ防

務ニ參與セシムルコトアリ

